

先日リビングでくつろいでいると、小学生の姪っ子が宿題を持ってやってきた。それにひつついてきた3歳の甥っ子が何かと邪魔をしているのが気になり、僕は甥っ子に平仮名で名前を書く練習をさせるため手本を書いてみた。すると即座に「そんな字は今使わない」と姪っ子からの一言。「平仮名で使わない字なんてあるのか？」と不思議に思っていると、書いて説明してくれた。今は『そ』ではなく『そ』と書くのだそうだ。僕が小さい頃には『そ』と書くように教えられ、『そ』と書くのは年配の先生だけだったが、今は違うらしい。「へえ〜」と思いながら、ふと姪っ子のノートを覗き込む。そこには、ブロック体で書かれた英単語がぎっしりと並んでいた。「中学に入ったらまず筆記体を覚えなきゃな」と姪っ子に話しかけると、「今は筆記体なんか書かないよ」とまた驚きの発言が・・・。「へえ〜」と思いつつ何となく回りを見渡した。

壁に草書で書かれた習字が貼られていたので「誰が書いたんだろう？」と珍しそうにそれをながめていると、それに気づいた姪っ子が、「中学に入ったら書初めが草書になるらしいから練習で書いてみた」と得意気に話す。草書を書くなんてことを学校でしたことのない僕は、またまた驚いた。

今まで、新しい物が世に出回るたびに時代の移り変わりをほんの少し感じることもあったが、今はちよつと違う。僕が学んできたことの中で、今ではもう『あたりまえ』でないことが、たくさんあるという事実を実感させられ、不思議な気持ちになった。時代とともに移り変わる『あたりまえ』の中で、僕が学んできた『あたりまえ』だったことは、その時代の風景とともに僕の中に残っていて、それがなぜか嬉しくもある。自分が経験してきた『あたりまえ』を大事にしていきたいと改めて感じた。

(0)

63

Litaracy

::: 配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター  
会員宛へ郵送 等 \*会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

::: 配布協力

Ragslow/垂cha:la/森の花畑/FMおかせぎ/松懸寺/  
杉くんの駄菓子屋/FURA gallery/angelshare/  
長善館/cafeくらがり/コミュニティ・ユース・バンクmom/  
三河サドベリースクール シードーム

まちのミカタ

Litaracy

2013.5 vol.63

::: 発行・編集

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0072 岡崎市六供町字杉本78-1

TEL (0564)23-2888 / FAX (0564)23-2898

http://www.okazaki-lita.com

http://www.facebook.com/okazaki.lita



最後に選択した商品や行為はどのようなものであっても、その結果に至るまでのプロセスの中で生まれた個人の価値観への気づきや意味を、一つの物語としてステイトメント（表現）する。

まちづくりは「生活芸述」の視点から始まる。



## 01 絵葉書ひと騒動

先日、かつて遠方でお世話になった方から丁寧なお手紙をいただいた。心温まる内容がとても嬉しく、返事が遅くなるとはいけないうと便箋に慣れない手紙をしたためた。

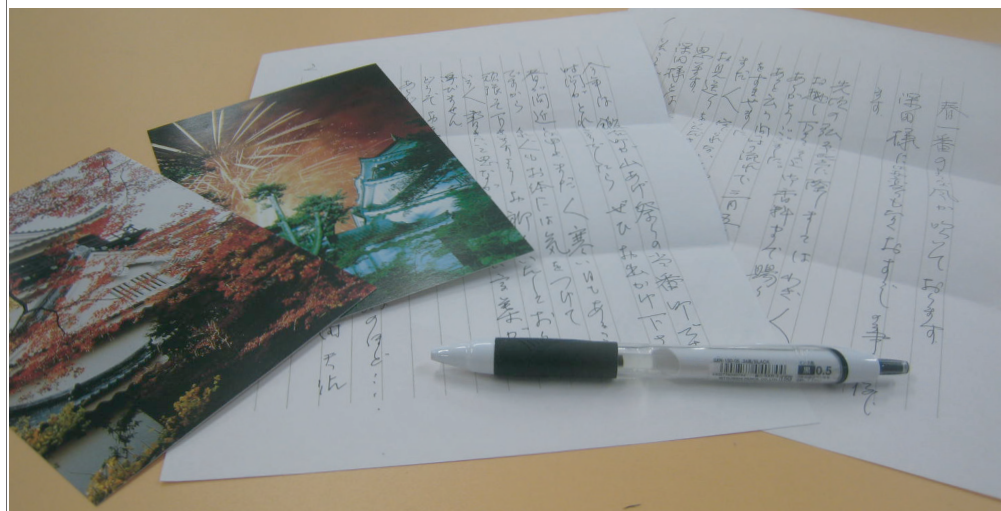
さて、いざ投函しようとしたところ、手紙だけでは味気なさを感じ、岡崎らしい写真を添えたいと思った。だが、あいにく手元にそれらしい写真はない。桜も終わり藤はまだ。そこでたまには絵葉書を買って添えてみようと思いついた。

そこから大変だった。岡崎らしい風物が写っている絵葉書はどこで買えるのか。岡崎公園の売店に行くと既に閉店。

康生周辺をウロウロするも、それらしきお店は無い。東岡崎に行って売店、書店、周辺を探し回るも売っておらず、観光協会や市役所のコンビニも無し。結局、後日再び岡崎公園の売店へ。扱っていたのは岡崎城の四季の絵葉書。もう少し岡崎らしさの伝わる絵葉書があるといいなあと思いつつ購入。

皆さん、絵葉書に限らずお土産品はいったいどこで買っているのだろう、せめて駅前で簡単に買えるお店はできないものだろうか、などという思いを巡らせる一日だった。

(K)



Text: (K) Jenshi Fukada / Sayoko (F) ukaya / Ryoto (H) jiraiwa / Takahiro (O) kada

## 02 ほぼ日刊Facebook

もうかれこれ2年ちかく、毎日欠かさずFacebookを更新している。一部の方からは「ネット依存症なのか?」とか「暇なのか?」といぶかしがられることもあるが、そういうわけではない。思うところがあったので、実は自分でも辛いと感じるときがたまにある。

ではなぜそんなことを続けているかといえば、自分で「何があっても毎日更新し続けよう」と決心したからで、この決心に至るには二つのことに大きく影響を受けた。一つは「心の鍛錬にはどんな小さなことでもいから意識して何かを毎日続けるとよい」という誰かの言葉だ。この言葉に共感して以来、いろいろとトライしたが、結局私には「毎日Facebookを更新」しか残らなかった、というのがこの決心の直接原因である。

あともう一つは糸井重里氏が運営しているウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」。ほぼと言いつつ、もう15年近く一日も欠かさず内容の濃い

コンテンツが更新されており、ヒット商品も生み出しているクリエイティブなサイトだ。自分もこれにあやかって、能う限りテンションの高い記事を日々出し続けようと思いつけている。

辛いと言うものの、書き続けることで外の世界に対してアンテナを張ってられるということと、限定的とはいえ、私の人となりを知っていただき、共感や協力をいただけるという点では一定の効果を実感している。「自分の思っていることをつぶやく」ということは、それほど大したことがないように思うが、それを続けていけばより大きな力を動かすきっかけになると感じた。

★ほぼ日刊イトイ新聞

<http://www.1101.com/home.html>

(F)

## 03 「ふっせ」なるもの

「ふっせ」という食べ物はご存知だろうか。簡単に説明すると春先の1ヶ月間ほど収穫できる野菜で、玉ネギとネギの間くらいをイメージしてもらえるとわかりやすいと思う。しょうゆにつけてかじるとたまらなくおいしい。

みずみずしく、新玉をもう少しピリ辛にした感じというイメージできるだろうか。あまり上の方までかじるとネギ辛くて後悔するし、たくさん食べすぎると次の日の息が大変なことになるスリリングな食べ物だ。

わが家では毎年の楽しみになっているが、正式名称すら不明の謎の食べ物ということを最近知った。たしかに今までこれを紹介した中で知っていた人は一人も

いなかった…

あまりの認知度の低さにそもそも食べ物かどうかも怪しくなってくるほどだ。

この「ふっせ」なるもののおいしさをもっと知ってほしい…

ということで育て方と食べ方をここで紹介しましょう。

- ①冬になった玉ネギの芽を捨てずに土の中(10cmくらいの深さ)に埋める
- ②定期的に肥やしをやったり土の入れ替えをする  
※このひと手間、立派なふっせか貧相なふっせかが決まる
- ③祖父いわく、藁をかぶせておくといいらしい
- ④3月後半くらいになると収穫できる
- ⑤芽を切って、一皮むくと白くおいしそうなるふっせがあらわれる
- ⑥しょうゆをつけてかじる
- ⑦口臭ケア

食べられる時期も終わり、植えるのにも早いタイミングでの紹介になってしまいました。冬にまた思い出して、ぜひ一度実践してみてください！



(H)